

学院

キャンパスだより

第4号



光星学院高校授業風景

- 光星学院提携教育ローン実施
- 湊高台キャンパス新築起工式
- 平成18年度八戸大学・八戸短大合同学位記授与式举行
- 八戸大学・八戸短大外郭3団体合同懇談会開催
- 八戸信用金庫経営塾・IT研修会開催
- 八戸短大資格取得の取り組み
- 光星高校書道最優秀賞を受賞
- 野辺地西高校ボランティア部の一年間の活動
- しなのめ幼稚園水産教室

光星学院提携教育ローン実施



青森銀行取締役八戸支店長 山形博氏(左)、本学院理事長 中村覚(中)、みちのく銀行執行役員八戸支店長 加藤政弘氏(右)

平成19年2月2日(金)八戸大学・八戸短期大学総合研究所市内オフィスにおいて学校法人光星学院と青森銀行、みちのく銀行が提携して取り扱う教育ローンの調印式が行われた。

本学院からは中村覚理事長、青森銀行からは、取締役八戸支店長山形博氏、みちのく銀行からは、執行役員八戸支店長加藤政弘氏が出席した。この金利を優遇した教育ローンは県内の大学・短大では初めての試みで、八戸大学・八戸短期大学、光星学院専攻科に在学する学生(入学を予定する学生)又はその保護者を対象とし、通常の教育ローンより0.25%の低金利で提供するもの。この経済支援制度は、在学中の経済的不安を解消し勉学に専念できる。また、この提携教育ローンは八戸大学・八戸短期大学・光星学院専攻科で学ぶ意思がありながら、経済的理由により就学を断念することのないように入り入れられたシステムであり、在学中の利息分を奨学金として補填する制度も設けている。中村覚理事長は「教育を受ける機会の均等を図るため、今後も制度を充実させたい」と抱負を語った。

●●● 聖書の言葉から ●●●

死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはず。そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお罪の中にあることになります。そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけです。もしキリストにかけているわたしたちの望みがこの世の生活に限られるのであれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。(コリントの信徒への手紙1第15章16～19節)

新緑の季節ですね。北国に住む私たちでなくても、一般に春は最も心躍る季節といえるでしょう。この時期に、キリスト教では「復活祭」という一年で最も重要な行事を祝います。「イースター」と言った方が、馴染みがあるかもしれません。復活祭は、文字通り、イエス・キリストの復活を祝う日です。では、復活祭はどうして重要な祝いなのでしょう。

キリスト教の世界観では、人祖アダムが神に対して犯した罪により、人間は死すべき者となったが(墮罪)、イエスの受難と十字架上の死によって人間の罪は許され(贖罪)、イエスの復活により人間は死後も生きる道が示された(救済)、と理解されています。復活は、本来救いがたい存在

である人間が救われるという、神からの最大の「賜物」であるわけです。この流れを「救済史」とも呼びます。復活はいわば、死の淵に命の光が照らされる救済史のクライマックスです。したがって、復活抜きにキリスト教を語ることは出来ません。

パウロが上の引用のように語ったのは、古代教会のなかに「イエスのことは尊敬しているが、復活というのは作り話だ」と考える人々が実際にいたからでしょう。確かに、復活という事態は、人間の理解を超えています。しかし、だからこそ最大の神秘なのだ、とも言えるでしょう。パウロが「キリストにかけている」と語っているように、復活信仰とは、人知を超えた神秘に自分の人生をかけるようなものだと思います。ただしこの「かけ」は巷の博打とは別種のものでしょう。人が競馬やパチンコをする動機には、多かれ少なかれ「お金はいいものだ、お金がほしい」という気持ちが働いています。一方、パウロの言う「かけ」の前提には、「命はいいものだ、命がほしい」という人間のより根元的な共通理解があるのではないのでしょうか。このように考えると、命が躍動する春の到来に心躍る感覚は、復活信仰と無縁ではないような気がします。

(木鎌耕一郎＝八戸大学ビジネス学部助教授
(宗教学・キリスト教概論))

2007年 光星学院「新年の集い」開催



平成19年1月13日(土)午前11時より、八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、平成19年光星学院「新年の集い」が開催された。例年の通り、法人内職員をはじめ、役員並びに外郭の関係各位の参加をいただき、賑やかな集いとなった。最初に首藤正義司祭による新年の祈りにはじまり、中村覺理事長より「めまぐるしく変化する法人運営の中にあって、その対応にはスピードが要求される。今まで以上に教育環境は向上します。これからは中身の問題です。皆さんにおいても、それぞれの立場で、それぞれの使命と目標に向かい、今年もより一層明るく元気に共に進んでいきましょう」と挨拶、泉山裕理事で乾杯、そして懇談の場になった。



会場では、市川侑乃(ゆきの)さんによるエレクトーン演奏が披露され、多重奏な演奏が会場内に響きわたった。メめは、八戸短期大学附属幼稚園(仮称)の園長に就任する幼児保育学科長の外崎充子先生の指揮による賛美歌「神ともにいまして」が合唱された。

湊高台キャンパス新築起工式



平成19年3月19日(月)11時より、光星学院高校の中庭において湊高台キャンパス新築起工式が執り行われた。起工式は、施工業者の清水建設株式会社常務執行役員東北支店長吉田和夫様など多数の方々にご参加いただいた。本学院からは中村覺理事長をはじめとして理事、光星学院高校教職員及び生徒らが参加した。

起工式では、首藤正義司祭による招きの儀式に続き、聖書朗読、祝福の祈り、共同祈願、主の祈り、鍬入れなど工事の安全祈願を行った。最後に中村覺理事長より「少子化の時代ではあるが、元気良くスタートしていくためにリニューアルをいたします。工事の無事を願いたい。」と挨拶があり、起工式は終了した。

高校の新校舎は三階建になり、旧校舎の四階建て部

分を残し、これに接続させるかたちになる。しきりを少なくして窓が多く開放的にし、都会的な美しいデザインの建物になる。また、バリアフリーを意識してエレベーターを設置するほか、2階ですべてのフロアが平面でつながり、生徒が自由に学習や交流の場として使えるラウンジが設けられる予定だ。

駐車場はキャンパス全体で400台が収容可能であり、玄関近くには、多目的に使用が可能な100人収容のオープンスペースを設置した。

体育館等特別教室を除くと、校内は土足で生活できるのも特徴で、中庭には演劇など文化活動ができる屋外ステージを設けた。

八戸大学・八戸短期大学合同学位記授与式



平成19年3月18日(日)13時より、光星学院総合体育館に於いて、八戸大学・八戸短期大学合同学位記授与式が挙行された。

この日は、少し冷たい風が吹いていたが、天気は良く晴天であった。卒業生は、例年通り男子学生はスーツ姿、女子学生は羽織袴姿で式場に訪れてくるのが多く見られ、卒業生と父母及び来賓、教職員らが学位記授与式会場に集まった。

式場では、八戸短期大学幼児保育学科卒業生の代表者数名によるピアノ演奏が披露され、この中を卒業生達がそれぞれの席に着席した。式は国歌斉唱に始まり、八戸大学商学部商学科89名、八戸短期大学幼児保育学科127名、同現代ビジネス学科34名一人一人に学位記が授与された。

学位記授与に続き、学長賞など各賞の紹介を行い、学長式辞では蛇口浩敬学長が「フェアプレイという価値観を持ち、自信を持って粘り強く新しい社会を作り上げていただきたい」と述べた。中村覺理事長は「社会全体が大変な時だが、大変だからこそ希望を持って前向きに明るく進んでいって欲しい。」と挨拶した。

卒業生代表謝辞では、八戸大学の高屋敷直子さんから「高い志をもって、自分なりの人生を歩み、期待に応えるよう精一杯頑張っていきたいと思います。」と謝辞し、八戸短期大学の山田まゆさんからは「心の中から、『ありがとう』を伝えれる友人を見つけることができた。自分たちの共通の財産、これからの人生の助力として生きていきたいと思います」と謝辞が述べ

られた。

そのあと、卒業生記念品の紹介が行われ、最後に、学歌と式歌を卒業生及び八戸短期大学幼児保育学科1年生の合唱隊が斉唱し、学位記授与式は終了した。その後は、式場の体育館は卒業生と教職員が共に記念撮影等が行われ和やかな雰囲気包まれた。



大学・短大外郭3団体合同懇談会開催

八戸大学、八戸短期大学の外郭3団体(後援会・父母の会・同窓会)合同懇談会が2月2日、シャトーカミヤ八戸で開催された。大学・短大の役員が合同に会するのは創立以来初めて。

会は、両校の後援会が主催し、学院からは中村覺理事長、法官新一常務、蛇口浩敬学長の他、幹部教



職員20名、外郭団体からは約50名が参加。冒頭八大後援会の山田政信会長が、「大学・短

大とも3年後には30周年・40周年の節目の年を迎える。我々3団体においても万難を排して、大学・短大を支援していかなければならない」と挨拶がなされた。本学院からは中村覺理事長の挨拶に続き、蛇口浩敬学長から「平成20年度に設置を目指している八戸短大の看護学科」について、法官新一常務から「大学人間健康学部や新設される看護学科が利用する校舎の建設を含めた美保野キャンパスのリニューアル」について、高坂郁子総務部長から「イノベーション基金の概略」についての説明があった。その後短大後援会の佐々木正雄会長の乾杯により懇談。大学・短大の近況報告や各会の情報交換をしながら有意義な懇談となった。

課外活動報告会



八戸大学

平成19年1月23日(火)、学友会主催の平成18年度課外活動報告会が開催され、各クラブ・サークルに所属する学生をはじめ監督・コーチなど関係者181名が参加しました。

開会にあたり滝沢達企画部長より「今年度の活動を語り合いながら来年度の活力として下さい」と挨拶があり、八戸大学蛇口浩敬学長が開催のよこびを讃えた。続いて学友会課外活動報告・表彰・役員当選証書授与を行い平成19年度も各クラブ・サークル・学友会それぞれの活動が今年度以上に開花されることを誓った。引き続き行われた懇親会では、各クラブ・サークルの余興で大いに盛り上がった。課外活動と同様、1つの大舞台へ飛び出していくかのような熱の入った企画が次から次へと会場を沸かせてくれました。打ち込める何かがあるということはこんなにも熱く堂々と自分を表現できるのかと感動し「熱い思い」はすべてに共通することを実感しました。最後に主催した学友会の皆さん、12月の予定が延期になったにもかかわらず、開催日当日まで細かい調整や打合せを積極的に行い成功させてくれました。本当にご苦労さまでした。また来年度の企画が今から楽しみな報告会でした。

平成18年度の就職状況について

八戸大学

企業の新卒採用意欲はここ数年上昇しており、バブル期に匹敵する状況であった。これを裏づける尺度としての求人倍率は1.89倍と5年連続で上昇し、就職環境としては売手市場と言えるのである。また、厚生労働省の「労働経済動向調査(平成18年5月)結果の概要」によれば採用数を増やすと回答した企業(事業所)は大卒文系で約2割、この増加の理由は経営状態の好転・既存事業の拡大が筆頭で次いで年齢等人員構成の適正化、退職者の増加などが挙げられている。

さて、本学学生の就職状況であるが、学部学科の特性上、小売・サービス・金融などへの就職が比較的上位を占めていたが、今年度においては分散傾向になっている。これは、学生の視野が偏ることなく、広角に業界研究を進め、自分の将来をイメージできていると同える。学内での就職指導も学生個人との会話を増やし、就職ガイダンスの内容も見直しを図るなど対策を講じ、現時点の内定率は89%と昨年同時期よりも若干

上回っている。すでに、3年生の求人を受付ける時期を迎えており、エントリー(受験の初期登録)を行っている活動の早い学生もいる。

今後は、学生の業界・企業に対する情報収集を促し、同時に景気変動などを注視しながら、常に変化する就職戦線に対応できるように指導していきたい。また、売手市場の実態をよく理解させ、企業と学生の動向を把握しながら就職ガイダンス、キャリア形成支援を充実させるなど、現場担当者に課せられる課題も多くなっていくことは大勢の見方である。

✧ 平成18年度 進路状況(内訳) ✧

医療・福祉	運輸	卸売	小売
3%	8%	3%	16%
教育	金融・保険	建設・建築	サービス
3%	4%	4%	16%
情報・通信	製造	農林・水産	不動産
12%	18%	3%	4%
進学	合計		
6%	100%		

「八戸大学」OB&OG訪問 part4

Q: 日本での生活を振り返って感想を聞かせてください。

A: 最初は大変でした。特に言葉の壁が大変で、言葉になれるのに半年、生活になれるのに3年かかりました。10年間長く感じましたが振り返れば早かったです。

Q: 来日して一番ショックだったこと、日本にきて一番困ったことは何でしたか。

A: ショックだったことは日常の会話で使う「今度食事に行きましょう」という言葉を本気にとっていて、いつ誘ってくるかずっと待っていました。それがあいさつの1つだと知ったときショックでした。困ったことは、靴を脱いでスリッパに履き替えることです。

Q: 中国に戻ったらご結婚と聞きましたが、遠距離恋愛で大変だったでしょう。

A: 来日前も含めて13年間の遠距離恋愛の間、国際電話やメールのやりとりで、顔が見えずに上手くコミュニケーションが取れなかったのが大変でした。

Q: 教職員・在学生にメッセージをどうぞ

A: 日本語が上手くわからない私に言葉を教えてくれた教職員の皆さんには感謝の気持ちを忘れません。在学生の皆さんにはもっと積極的になって欲しいことと、



10年間の日本での生活を終え今春中国に帰国する
小野寺晶子さん

自分の体験からもっと努力をして欲しいことです。

Q：今後は日中友好のために頑張ってください。

A：はい。いずれは日本語をいかせる仕事について日中友好のために努めたいと思います。

プロフィール

中国黒竜江省ハルビン出身、平成9年来日、仙台育英学園高校から関東の大学に入学し八戸大学編入。仙台育英学園高校 I L C 青森を今春退職し中国に帰国する。

平成18年度 第55回全日本大学サッカー選手権 初出場

八戸大学

試合終了のホイッスルで歓声が上がった。東北地区大学リーグ初制覇、リーグ戦第6節で対東北学院大学に2対1で勝利、最終節を待たずに東北の頂点に立ちインカレ初出場を決めた。

インカレは12月20日から各地域を勝ち抜いた24チームが6ブロックに分かれ予選リーグがスタートした。八戸大学は強豪揃いのAブロックに入り、初戦は今年度の総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントで準



優勝している九州代表の福岡大学との対戦となった。試合序盤は若干動きに堅さがあり相手に攻め込まれたが徐々にペースを取り戻し終盤は八戸大

学のペースで終了した。結果は1対2で惜敗したが、次に繋がる手応えの試合であった。2戦目は関東を制覇した流通経済大学との対戦となった。終始相手ペースの試合展開で結果は大量の6失点で完敗、決勝トーナメントの進出が閉ざされた試合であった。最終試合は、中国・四国代表の福山大学との試合であり、試合開始から八大サッカーの特徴を遺憾なく発揮し3対0で快勝、全国大会初白星を飾った。今大会を振り返ると天皇杯とは異なる大会で選手は様々勉強になった大会と思える。今後はこの経験を生かし更に飛躍することを願いたい。今大会の出場に際し、数多くの皆様方からご尽力を頂き心より御礼申し上げます。

八戸信用金庫経営塾・IT研修会

八戸大学

＜研究所主催行事開催＞

○はちしん青年経営塾

八戸信用金庫と総合研究所主催による「第2回はちしん経営塾」が1月18日から始まり、3月まで5回のセミナーを開催された。

はちしん青年経営塾は、八戸市内の若手経営者の経営能力向上と人脈づくりなどを目的に、昨年度から開催されているもので、今年度は八戸市内の若手経営者ら40人が参加している。各講座は経営の基本理論と実践経営の2本立てで開催され、本学教員の他、八戸市内の会社経営者、税理士などが講師を務めた。



○IT教育研修会

総合研究所主催による「IT教育研修会2007～DONDA～」が2月16日、総合研究所市内オフィスで開催された。IT教育研究会は八戸地域のITコミュニティ作りを目指し、平成13年度より始まったもので今回で5回目。今回は、トレンドマイクロ株式会社の蓮池俊明様より「ウィルス被害の傾向と対策」について、ソフトバンクモバイル株式会社の高橋孝長様より「モバイルセキュリティー」について、NHK青森放送局の品田幸弘様より



「何が変わる？地上デジタル放送とインターネット」（まもなく開始！地上デジタル放送の利用）についての講演があり、50名が聴講した。

◆ 大学図書館と出会って ◆

八戸大学 商学部商学科 高屋敷 直子



私は、「八戸大学・八戸短期大学図書館」と出会い、この4年間に沢山利用させていただきました。大学に入学する前は、図書館を利用することなど殆どなく、図書館は、私にとって遠い存在だと思っていました。けれども、八戸大学

に入学してからは、レポート作成時の参考文献の収集や講義で疑問に思った用語などを専門辞典で調べたり、さまざまな資格取得のための参考書や問題集を自分で買わずに借りて勉強したりなど、どんなときでも助けてくれたのがこの大学の図書館でした。

図書館は、どんな情報でも調べられる場所であり、無知な私にとって、時間を忘れさせるくらい夢中になってしまう「新鮮」な場所です。今は、インターネットが普及し、ボタン1つで検索できる時代ですが、実際に手にとって辞書を引くことや索引や目録でひとつひとつ丹念に文献を調べることは、とてもおもしろいことだと私は思います。

特に利用させていただいたのは、「新聞」でした。以前ならテレビの番組欄しか見なかったはずが、今で

は、経済や社会情勢、株式市場など細かい情報まで読むようになりました。図書館には、沢山の新聞も、きちんと整理されて保管されているので、忙しくて読み損ねた記事や必要ないと思っていた情報がだいぶ後になって必要になった時でも取り出してコピーができたので、本当に助かりました。

また自分ひとりでは調べられない時、読みたい本が探せない時、助けてくれるのが図書館の職員の方々です。後輩の皆さんも、これからレポートや論文を作成しなければならなくなった時には、パソコンに向かう前に、まずは図書館に来て職員の方にアドバイスを受けてみて下さい。そして、そのレポートのテーマに沿った本をじっくりと2～3冊読んでみて下さい。きっと、高い評価を得られるレポートや論文が完成するはずです。その時の充実した達成感を皆さんにも感じて欲しいと思います。

就職し社会に出てしまうと、ゆっくりと図書館を利用する機会はなくなってしまふでしょう。だからこそ、学生時代のその短い期間を有意義にするためにも是非、図書館に足を運んでみて下さい。

初級シスアド、日商簿記検定、販売士検定、秘書検定、食生活アドバイザー等、資格試験に合格したい人にも、合格に導いてくれる問題集が色々ありますので、お勧めします！

学生制作 Web サイトが 道の駅情報大賞受賞

八戸大学

宮城県石巻市（旧桃生郡河北町）の道の駅「上品の郷」（じょうぼんのさと）の要請を受け、八戸大学の学生たちが同所のWebサイトを制作することになった。道の駅「上品の郷」（以下：同駅）は、2005年3月、旧桃生郡河北町が三陸自動車道の暫定的な終点となる河北インターチェンジに隣接した国道45号線沿いに開設した施設である。同駅は、国土交通省が設置する道路情報施設のほか、地域の産業振興を視野に入れた農産物直売所、温泉保養施設、レストラン、地域の特産品を扱うコンビニエンスストアを複合的に経営している。年間の来客数は30万人を超え、50km以上離れた仙台都市圏からの来客に加え、温泉保養施設には県外からの来客も多い。

同駅のWebサイト制作には、八戸大学で地域情報化について研究している商学部4年の山田和貴子とビジネス学部1年の大村晃弘が参加した。作業は2006年9月より開始し、同駅に滞在しながら情報収集やコンテンツ制作等の業務に従事した。Webサイトの制作では、同駅の駅長や職員の方々の要望を聞きながら、サイトのコンセプトやコンテンツとして公開する情報を検討した。検討した結果、駅長のあいさつ、同駅までのアクセス方法、職員の紹介、同駅の施設案内などの静的なコンテンツに加え、イベント情報や一定時期に変わるレストランのメニュー、地域の名人情報、農産物直売所の入荷情報などの動的なコンテンツを制作するこ

とにした。コンテンツの情報公開の方法についても、地域の具体的な情報を詳細に伝達するために工夫を講じた。従来までのWebコンテンツの多くは、文字と静止画によるコンテンツであったが、同駅のWebサイト制作では動画や地図による情報発信を試みることにした。また、動的なコンテンツを容易に更新できるようにするため、雛型に沿ってWebコンテンツの編集が可能なオープンソースのコンテンツマネジメントシステム（CMS）を採用した。このほか、農産物直売所では、八戸大学が開発した農産物生産履歴公開システムを活用しながらエコファーマー認証を受けた農産物に関する情報を公開した。

Webサイト開設後、同駅職員の方々や農産物直売所に所属する生産者の皆さんのご協力もあり、コンテンツを定期的に更新していくことができた。開設後のアクセス数も順調に伸び続け、県外客からの問い合わせもしばしば寄せられるようになってきた。2007年1月には全国の道の駅の情報をWeb上に紹介している「未知倶楽部（みちくらぶ）」（運営：伊藤忠商事）から「第二回道の駅情報大賞」が贈呈された。同駅とは、現在も具体的かつ詳細な情報の公開方法について考察しており、宿泊情報や地域特産物の情報、農産物を使ったデジタルレシピなどのコンテンツの公開に向けた作業を行っている。

平成18年度 資格取得の取り組みについて

八戸短期大学

平成18年度の資格取得講座は、例年と同じく、夏期休業中と春期休業中に2週間ずつ行われた。

夏期資格取得講座では、経済産業省が実施している初級システムアドミニストレータ試験、日本商工会議所主催の日商PC検定「文書作成」、「データ活用」と、同じく日商の簿記検定を扱い、春期資格取得講座では、夏期講座で扱ったものの他に、ライフデザイン学科の発足に伴い、国土交通省が実施している国内旅行業務取扱責任者、東京商工会議所主催の福祉住環境コーディネーター検定を扱った。

以上のような取り組みの結果、経済産業省の国家試験である初級システムアドミニストレータ試験に2名合格した他、日本商工会議所主催の簿記検定、販売士検定、日商PC検定、文部科学省後援の実務技能検定協会主催、ビジネス文書検定、ビジネス実務マナー検定、サービス接遇検定などに合格者を出した。

平成18年度は、資格取得講座の他に、外部教育機関などに依頼して、ホームヘルパー2級講座や医療事務2級講座を行い、こちらも多数の合格者を出している。

一般に学生は、長期休業中にアルバイトの予定を入れることがあるが、大学卒業という学歴にプラスして資格を取得することで、希望する職種に就ける可能性が大きく広がるので、多数の学生が資格取得講座を受講して欲しい。

「ミニ・オペレッタ」

八戸短期大学



八戸短期大学幼児保育学科の2年生が、2月22日(木)に本学付属幼稚園の園児達を迎え、ミニ・オペレッタを行った。ミニ・オペレッタは、本学の伝統ある学科行事で保育士および幼稚園教諭を育てる養成校として「職場で活躍出来る即戦力の育成」を目的に実施している。

この発表会は、講義科目である表現(美術)・表現Ⅱ(音楽)の2つの科目を美術的表現(大道具・小道具等)と音楽的身体表現(旋律・リズム・和声的即時反応等)として総合的に評価していることが特徴である。

担当教員の一人である附田勢津子教授は、反省点も多々あるものの「創造性・表現力が備わっている」「全てにおいて工夫を凝らし、手作りの良さも感じられる」と評価。この評価とは別に、学生を含め見学者全員からの投票で1位から4位までのグループに対して後日、表彰を行った。

まもなく、保育士・幼稚園教諭等として社会に出る本学学生達が、このミニ・オペレッタを通して自覚・風格が備わってきたように感じられた。本学で学んだことを活かし保育(教育)の現場で活躍してもらいたいものである。

「学生生活について」

八戸短期大学

今年1年を振り返り、とても充実した日々を送ることができました。

短大の授業を受講し、自分は保育士という夢に一步一步前進していると実感しました。高校までの科目とは違い、全て保育に関係する内容で、学ぶことがとても楽しく感じました。

勉強だけではなく、様々なことを経験した中で特に頑張ったことは、ボランティア活動です。高校の時からボランティア活動に積極的に参加していたので、短大でもいろいろなボランティア活動をしたいと思って

いました。ボランティア先は様々で、知的障害児通所施設や重症心身障害児施設、夏には三社大祭の交通整理やおばけ屋敷のおばけ役など初めての体験ばかりで、とても勉強になりました。ゼミ活動の一貫で伺った重症心身障害児施設では、いろいろな子との出会いがあり、初めはどう接したら良いかわからず戸惑いもありましたが、歌を歌ったり紙芝居を読んだりしてコミュニケーションをとると、自然に仲良くなることができました。コミュニケーションは言葉だけではない、ということ学びました。私はこの1年ボランティア活動を通して、沢山の出会いやいろいろな経験することで自分の視野が広がり、保育士を目指している自分に大切なことを学び、自分自身が成長できた部分もあるように思います。これからも、積極的に活動していきたいと思っています。

2年生になると、実習が入りますます忙しい日々が始まりますが、どんなことにも全力で取り組んでいきたいと思っています。経験できることは自分から積極的に挑戦し、いろいろなことを吸収して保育に生かせるようにしたいと思いますし、その上で私は子どもの気持ちを汲んであげられるような保育士になりたいと思っています。(幼児保育学科 大谷 友美)

学生生活について

八戸短期大学

入学してから一年が経過いたしますが、ライフデザイン学科の講義内容を振り返ると、学外での講義や実習が多いということが印象に残っています。観光関係の講義では、三沢空港、古牧グランドホテル、三八五観光バスなどに出かけて、旅行・観光業に携わる方の心構えなどを聞き、地域看護概論では診療所・福祉施設などの見学、NPO論では鮫角灯台付近での流木を拾い、看板を作り、その看板を施設に寄贈するなど様々でした。

夏休みに観光関係の講義を受講している学生達が中心に旅行を企画し、一年生ほぼ全員で岩手県(雫石)へ一泊二日の旅行を体験し、楽しい思い出となりました。

この学科の特徴は「学んだことを即実践」に繋げることができ、毎日椅子に座って先生の話を聞くだけではなく、入学する前まで思っていた大学(短大)のイメージとは少し違いました。

1年では「福祉系」「観光・レジャー系」など多くの資格取得できる科目が多くあり、また、2年でも「メディカルクラーク(医療事務)」「ケアクラーク(介護事務)」など専門資格を取得できる科目があります。関心のある科目の講義を選び、卒業後の進路にむけて資格取得と結び付けると就職活動において職業選択の幅が広がると思います。

(ライフデザイン学科 山本 麻由実)

第2回ボウリング大会

光星学院専攻科

去る2月19日八戸市内にあるワヤマボウル場で学生会主催のボウリング大会を行った。毎年の恒例行事であり、卒業生の送別の意味も兼ねて学生92名、教職員12名で2ゲームトータルで競い合った。



学生の中には、快音を響かせストライクを出す者、初めてのボウリングを楽しむ者、投球フォームの格好

が良い者、携帯電話で写真を撮る者等々終始笑顔が並んでいた。

昔取った杵柄とやらで飛びぬけた得点の教員もいた。学生の最高得点は336点で、高価な賞品が贈られた。また学生にはアトランダムに数々の賞品が贈られ、その都度歓声の渦に包まれた。

この行事を機に自動車科2年生は、国家試験受験に向けて更に邁進し、介護福祉科2年生はケース・スタディのまとめにと学生生活の締めくくりになる。

日本赤十字社救急法救急員及びAED講習会100パーセント合格

光星学院専攻科

去る12月9日、10日、16日、17日の4日間の何れも日本赤十字社青森県支部所属されている救急法救急員指導者たちが、ボランティアでご協力いただき実施された。

対象は介護福祉科2年生。介護の現場でも一般市民としても救急救命の技術を身につけ、活用できることを目的としている。



最終日に筆記試験と実技の試験が課せられるため、学生は緊張の連続であった。慣れない手技と臨場感溢れる講習で涙をぐっと堪える場面もあった。

実技講習では「意識なし」「あなた、救急車をお願いします」等々、回を重ねる度に自信が出てきて路上でも聞こえるぐらいに大きな声を出すようになった。

膝部、耳介部、頭部の3箇所を3分で三角巾を使用して患部に包帯する実技試験では、毎日放課後に練習した成果が出た。

ボランティアの方々の温かい励ましと熱意に包まれ、全員合格することができ、大変喜ばしく思われる。

ここで認定された資格に甘んずることなく切磋琢磨し、必ずや救急救命に繋げられることを期待している。

スキー教室開催される!!

光星学院野辺地工学専門学校

去る2月16日(金)毎年恒例の学生会主催の「スキー教室」が国設まかど温泉スキー場にて行われた。今年は記録的な「超暖冬」で12月14日の「スキー場開き」の頃は、雪が少なくスキー教室の開催が心配されたが、年が明けてからなんとか開催できるまでに雪も積もった。



この日は、最初に学生会副会長の中村侑貴(野辺地西高校出身)君が「みんなで怪我のない楽しい一日にしましょう」と挨拶し、早速リフトに乗ってス

キー教室が始まった。天気にも恵まれ、朝から学生達はスキーやスノーボードの得意な学生も、そうでない学生もこの日ばかりは大いにはしゃぎ、自前のスキー用具持参で最初から上級コースを格好良く、さっそうと滑っている学生やレンタルスキーで初級者コースをおそるおそる滑る者など、楽しい一日となった。

この日のスキー場は大勢のお客さんでごった返すような大盛況であり、他の小中高生も大勢来ていたが、本校学生の態度、マナーなど自然な形で挨拶をかわしていた。なにげない行動と本学の学生達のやさしさが表われたスキー教室であった。

総合研究所だより(4)

今回は研究所の紀要第1号発刊までの歴史について述べたが、では総合研究所はその後どのような経緯を経ながら今日に至ったかを辿ってみよう。紀要の第1号は1989年(平成1年)の発刊であったが、第2号は更に4年後の1993年(平成5年)である。その間に総合研究所の環境も変わり1992年4月に新装なった八戸大学学生会館の3階に独立した場所を確保できるようになった。この時より研究所専用のコンピュータも備えられたという。徐々にとはいえ研究所としての形態・体制が整えられはじめてきたのである。研究所活動も次第に活発になり、前回に述べた1985年からの地域住民を対象とする「八戸大学公開講座」も次第に定着し八戸商工会議所が主催する生涯学習フェアにと共催という形で八戸商工会館を会場として開催するようになった。この公開講座の講演要旨は総合研究所の紀要である「産業文化研究」にその都度掲載するようになる。更に、研究所の行なう『地域を主とする内外の産業・文化に関する研究・調査』事業の具体化する一環として実施する「自主研究」も1993年度よりスタートさせており、その成果である論文は紀要に掲載された。

一方、外部からの委託研究も1993年度の青森県からの「青森県労働力事情調査」「地域中小企業集積創造的發展計画」或は全国沿岸漁業振興開発協会よりの「特定地域沿岸漁業開発調査」等々次第に研究所業務の行動分野が拡大を見せ始めた時期でもあった。

平成18年度卒業式

光星学院高等学校

3月1日、例年では考えられない春のような日差しの下、平成18年度卒業式が厳かな雰囲気の中で挙行された。367名の卒業生が、一人一人の三年間の思い出を胸に抱き、またこれからの人生への新たな決意を誓い式に臨んだ。



今年度の卒業生は光星高校改革元年に入学し、普通科の新体制・各科の再編成、女子の新制服、そして50周年記念と新しい光星高校の中で生活し、新しい光星高校を作ってきた。残念ながら、新しい校舎に入ることができなかったものの、ネオ光星の礎を作った事実は永遠に語り継がれるものと確信する。

山西幸子校長の式辞にあったように、「光星高校の卒業生であることに誇りを持ち、自分の前にある限りなき可能性に挑戦し、それぞれの道で大きく飛躍される。」ことを願ってやまない。

18年度卒業生進路状況

光星学院高等学校

	卒業生数	進学			進学計	就職		就職計	未就職者	その他
		大学	短大	専修校他		県内	県外			
男子	187	43	6	45	94	48	35	83	4	6
女子	180	19	34	51	104	37	31	68	2	6
計	367	62	40	96	198	85	66	151	6	12

平成18年度の卒業生は367名であった。進路状況は、進学者数198名（全体の56%）就職者151名（全体の43%）であり、昨年に比べて進学者が増加した。

進学についてみると、主な大学・短期大学等の合格は次の通りである。[国公立大学・短期大学] 東北大学、北海道教育大学、秋田大学、山形大学、青森公立大学、青森県立保健大学、岩手県立大学宮古短期大学部。[私立大学] 慶應義塾大学、國學院大学、甲南大学、東北福祉大学、いわき明星大学、城西国際大学。

[法人上級学校] 八戸大学（ビジネス学部3名・人間健康学部11名）八戸短期大学（幼児保育学科32名、ライフデザイン学科4名）光星学院専攻科（自動車科19名・介護福祉科21名）。

この中で東北大学合格は昨年に引き続き2年連続、慶應義塾大学合格は本校初の快挙である。そして、進学希望者198名全員の合格が決まり進学決定率100%を達成した。

就職についても「特定の地域・特定の職種」と条件を限定しての就職活動をした生徒が多く苦戦が予想されたところであったが、大変健闘し、就職希望者151名が決定し、就職決定率は96.2%と昨年を上回る実績であった。主な就職先は「県内」八戸パークホテル、日本原燃株式会社、八戸ワシントンホテル、八戸燃料株式会社、三沢パークホテル、近隣の介護施設等。

「県外」東日本旅客鉄道株式会社、ネットヨタ株式会社、品川プリンスホテル、トヨタ車体株式会社、本

田技研工業株式会社等。

多くの高校が県内就職で苦戦している中、本校は県内就職数が県外就職者数を上回っていることは、特筆すべきことである。

今後も、さらなる進路指導の充実を図っていきたい。

東北選抜大会女子個人組手優勝 高谷郁子さん(2年生)

光星学院高等学校

1月19日(金)～21日(日)青森市民体育館に於いて第20回東北選抜大会が行われた。去年は男子団体組手で三位に入賞し全国大会に出場できたので、連続出場を狙い臨んだ大会でもあった。個人形で男女2名エントリーしたが、残念ながら予選敗退。女子個人組手に期待がかかった。県大会優勝の高谷郁子が出場。1回戦シード。2回戦は高橋選手（宮城県石巻好文館）と対戦。開始早々から積極的に攻撃したものの、なかなか技が決まらず、逆に相手にポイントを取られてしまう。あわや初戦敗退かと思われたが、終了間際に同点に迫いつき延長戦に。先取り勝負、緊張の一瞬である。得意の逆突きで勝利。見事な逆転勝利であった。それ以降は、落ち着いた試合運びで先にポイントを取り、姉（高谷直子・平成12年卒）以来7年ぶりの優勝を勝ち取った。次の目標は、3月下旬に和歌山で開催される全国選抜大会で、三位以上の入賞を目指すつもりである。



書道・最優秀賞(全国大会県代表)を受賞 見附夏海さん(2年生)

光星学院高等学校



平成19年2月27日に発表された県高総文新設の賞、「連盟賞」を見附夏海さん（2年生）が受賞した。この賞は、県高総文で最優秀賞を受賞し、全国大会に出場する者に与えられる。平成19年度の全国高等学校総合文化祭は、今年7月29日から8月2日まで島根県松江市を中心に行われる。昨年全国高総文に出場し、文化連盟賞を受賞した渡邊聡子さんに続き、書道部創設以来、9度目の出場となる。見附さんは「超高校生級の技術と表現力」と賛美され、県高総文で最優秀賞、八戸市美術展で教育長賞を受賞している。

〈書道部・今年度の成績〉

第一回連盟賞 見附夏海

第三十回全国高総文文化連盟賞 渡邊聡子

第十一回全日本高校大学生書道展優秀賞

渡邊聡子・見附夏海・田中夏美

青森県高総文・書道部門最優秀賞 見附夏海、

同優秀賞 渡邊聡子

八戸市美術展教育長賞 見附夏海、

同協会賞 渡邊聡子、

同秀作賞 田中夏美

「中国遠征強化合宿に参加して」

光星学院高校



今回卓球部2年の柴田圭介くんが、青森県高体連卓球部・県選抜選手上位8名のうち3番目に選出され、中国の上海で行われた強化合宿に参加しました。

この合宿で学んだことは沢山ありましたが、特に中国選手と日本選手とのレベルの違いに驚きました。中国選手は技術面だけでなく、精神面などいろんな面で一枚も二枚も上手でした。いろいろな選手と試合をしてみて、自分の弱点が浮き彫りになってしまいました。一球目、二球目、すなわちサーブとレシーブでした。中国選手のサーブはインパクトが強く、回転が猛烈にかかっていたりして、レシーブミスの連発で試合にならないこともありました。また、様々な技を駆使して、何としても相手のコートに入れようとするその執念も印象的でした。他にもまだまだたくさんありますが、今回の合宿で得た事を生かし、県ベスト4、インターハイ出場を目指します。



「新たな生徒会を目指して」

光星学院高校



50周年を迎えた本校の生徒会は、より活発な「生徒による生徒会」を目指し、日々活動しています。主に、スポーツフェスティバル、光星祭、クリスマス会などの年間行事の補助を行っています。平成19年度は、吹越麻貴子さんを新生徒会長として、男子8名、女子12名、計21名で生徒会を運営していきます。

吹越さんは、HR委員長・各部の部長・生徒会が中心となり、明るく笑顔が溢れる学校にしたいと考えています。また、生徒総会も開催し積極的に生徒が話し合う場を提供したいとも考えています。

さらに、2年前より、生徒会では編集委員会を設立し、2、3ヶ月に一度のペースで生徒会新聞「一揆一撈」を発行しています。常に「生徒からの発信」を心がけ、本校で活躍している仲間の紹介や、現代の社会問題を取り上げ、生徒が記事にしています。

光星学院高校をよりよい学校にするために、生徒会のメンバーが新しい風を学校に吹き込んでくれることを期待します。

スポーツ冬の陣

空手道部女子・レスリング部、「全国選抜」へ

野辺地西高校

屋外スポーツのいくつかはシーズン・オフがあるのですが、屋内スポーツにはそれがなく、夏のインター

ハイ（8月開催）、秋の国体（10月開催）、春の全国選抜大会（3月開催）の3大会を各部とも目指しています。特に各チームは他の大会に比べて出場枠の厳しい「全国選拔出場」を大きな目標としており注目されています。

本校の空手道部女子は、本年1月の東北選抜大会（青森市開催）において団体組手で見事優勝し、東北ブロック代表として「全国選抜」（3月、和歌山開催）の出場を決めました。3回目の「東北選抜優勝」で「全国選抜」には通算7回目の出場です。



また、レスリング部の清水目聖君も2月の東北選抜大会（秋田県五城市）において55kg級優勝、田村和也君は96kg級5位入賞と好成績を収め、3月に新潟市で開催される「全国選抜」の切符を手に入れました。全国制覇の目標達成のために日々鍛錬に励んでいる空手道部女子とレスリング部の活躍に注目してください。



ボランティア部の一年間の活動について

野辺地西高校

野西高のボランティア部活動は多種多様で、休日の大部分が活動日です。18年度は22人の部員が所属し、それぞれの活動にはいつも15～16人が参加します。

活動の多くは野辺地町教育委員会からの依頼です。例えば、子供会のキャンプ、独居老人宅の除雪奉仕、ウィンターフェスティバル、障害を持った人達のレクリエーション大会等々です。そのほかには小学校に併設されている障害児学級のバザーやクリスマス会、保育園のお手伝い、老健の祭りや文化展などのお手伝い、下北自然の家でのスタッフとしての活動等があります。また、JRCやインターアクトクラブとしての活動もあります。

部員はこれらの活動を通じて多くの人達と交流し、障害者やお年寄りへの偏見がなくなり、誰とでも自然に会話が出来るようになって、思いやりのある人間として成長しているようです。また、活動をいろいろな場で発表する機会が増えることで自信もついてくるようです。

ボランティア活動を始めるきっかけは進路のためとか、誘われたから仕方なくとか、それぞれあるようですが、1～2度活動に参加すると次の活動が待ち遠しくなるようです。そして、始めたときの動機はどうでもよくなり、「誰かの役に立ちたい、お手伝いがしたい。」という純粋な気持ちでボランティア活動に参加するようになります。そのことは私達顧問にも励みになり、活動の機会を多くしてあげたくります。これからもっと多くの生徒がこの活動に興味を持ち、参加してほしいと願っています。



水産教室 - 命の大切さを学ぶ -

しのめ幼稚園



本園では子ども赤十字の精神を取り入れ、月ごとに赤十字の目標をたてて活動している。思いやりの心・命の大切さ・自然環境を大切にする心を育てることに主眼を置いてサケの一生（サケの稚魚放流、サケの採卵見学、サケの飼育）を通して学習、体験している。そこで1月に行われた水産教室では、県水産事務所の普及員から生態や育て方などの指導を受けて学んだ。また、新田川漁業から協力を得てサケの稚魚の提供を受け、飼育することになった。サケの稚魚を観察していて「ちいさくてかわいい」「きらきら魚が光っているみたい」と水槽の中を元気に泳ぎ回っている稚魚を子ども達は嬉しそうに見ていた。

翌日から年中組ではサケの稚魚の餌をあげたり、水槽が汚れると水をかえたり積極的に子ども達は飼育していた。「あまり暑いとサケが死んじゃうよ、ストーブ消したら」とサケに対しやさしく育てている子どもの姿が見受けられとても微笑ましく感じた。途中サケが数匹死んだ時は「かわいそう」「赤ちゃんで死んじゃったね」とサケの死から命の大切さについて感じとることができ、生き物を愛すること、思いやりや命の尊さを学んでくれたことと思う。約7センチに育ったサケの稚魚の成長を願い2月末に新井田川へ放流した。「早く帰ってきてね」「大きくなってね」と下流へと泳いでいく稚魚を見守った。

これからも、いろいろな活動、友だちとの触れ合いの中で、身近な自然、人、動物などに関心を示し優しく、元気な子どもに育ってほしいと願う。



寒さなんかへっちゃらだい！

びわの幼稚園

立春を目前に控えた2月2日(金)。雪の少ない今年の冬ですが、前日夜から雪が降り敷き、枇杷野はあたり一面銀世界。この日は子どもたちの大好きな行事の一つ「豆まき」。教室で豆まきのいわれ（心の鬼退治）について紙芝居やお話を聞いた後、防寒服に着替えた子どもたちは外へ飛び出します。

広い園庭には、スクールバスの運転手さんが作ってくださった雪山。新しく積もった雪を踏みしめながら、子どもたちは鬼がどこから現れるのか辺りをキョロキョロ見回します。すると門の方から、運転手さん扮する鬼が現れました。年少さんの中には鬼をこわがって泣き出し、先生にだっこする子も。子どもたちは今ぞとばかりにピーナッツを投げつけます。逃げる鬼をキャーキャー黄色い声を上げながら追いかけてはまたピーナッツを浴びせます。たまたま鬼は泣いて逃げて行きました。飛び上がりながら拍手する子、得意満面の表情で、子どもたちの歓声が上がります。

あたり一面に落ちているピーナッツを拾い、みんなでピーナッツをほおばりました。満足そうな子どもたちの顔、顔、顔。鬼も寒さも見事に退治しました。

運動不足になりがちなこの時期ですが、びわのの子どもは寒くっても元気いっぱい。園内はもちろん、ちょっとでも雪が降ると外へ出て毎日元気に飛び跳ねてます。



八戸短期大学附属幼稚園一日入園



2月24日(土)10時から今年4月に開園する八戸短期大学附属幼稚園の一日入園が新しい園舎が未完成ということもあり、しのめ幼稚園の園舎で行われました。

一日入園には父母と入園予定園児約60名が参加し、外崎充子園長の挨拶に引き続き一日入園のしおりに基づいて八戸短期大学附属幼稚園の説明が行われました。

説明では、早朝預かり保育や制服・トレーニングウェア、スクールバス、給食、預かり保育、年間行事、入園式までの準備について説明されました。参加した父母の方々からは預かり保育や行事等で準備するもの等について積極的な質問がされ、有意義な一日入園となりました。

説明会終了後には、制服・トレーニングウェア、シューズ等の販売・注文受付が行われました。

4月5日(木)始園式、4月7日(土)開園式、4月8日(日)入園式が行われます。

